

女夫石遺跡発掘調査速報

No.17

長い梅雨もようやく明けたと思ったら、あっという間に夏休みも明けちゃいそうです。現場は気象庁発表の気温よりも確実に高い…。しかも日陰はない…。扇風機もない…。ましてやクーラーなどは…。そんな中、発掘調査を手伝っている皆さんはもくもくと調査をしています。何か新たな発見を楽しみにしながら…。

今回は、No.7で紹介した土偶についてもう少し紹介したいと思います。すでに25個の土偶が発見されています。発掘調査経歴の長い調査参加者の方も「土偶が多く出るな〜。」という感触！担当者も「意外と多く出るな〜。」という印象です。さて、今回は土偶がどんな風に作られていたかを紹介します。

沢リ：みんな暑い中、発掘しているね。土偶がもう25個も出ているんだって！前よりもかなり増えているね。何か、面白いことが分かったかな？

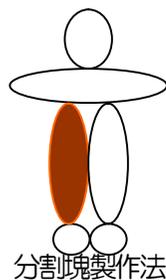
マキ：この前（No.7参照）、土偶は壊れた状態で出土することが多いことが分かったけど、今度は土偶の作り方が分かるような資料が発見できたいだよ！

沢リ：やっぱり作るときから、壊れやすいように土偶を作っていたんだね。壊すことに意味があったんだよ！

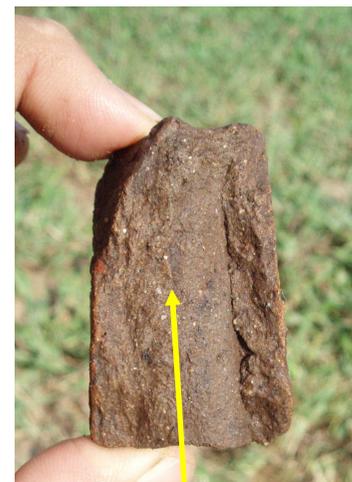
マキ：確かに、そうともいえるけど…。でも作りやすい作り方だったのかもしれない、はじめから壊すために作ったとは言い切れないんじゃないかな？

沢リ：いわれてみれば、壊れずに発見される場合もあるから、土偶には色々な意味が込められていたのかもしれないね。その一つの役割が「壊す」ということだったのかもしれないね。

マキ：土偶もまだまだナリが多そうだね。（つづく）



粘土の塊を組み合わせることで土偶を作っています。これを分割塊製作法（ぶんかつかいせいさくほう）と呼んでいます。手のひらに乗っているのは、土偶の胴の右側部分です。他の部分はどこにあるのでしょうか？



粘土の継ぎ目できれいに割れているのがわかりますか？割れているから価値がないと思ってしまうかもしれませんが、割れているからこそ、縄文人がどのような作り方で土偶を制作したのか分かってきます。よーく、観察することが大切なんですよ〜。